

令和3年10月6日（水）

6年生の保護者様

丹波篠山市立大山小学校
校長 足立 真一郎

丹波篠山市立大山小学校 学力・生活習慣に関する調査結果を受けて

6年生におきましては、全国学力・学習状況調査及び丹波篠山市による生活習慣状況調査を実施しました。いずれの調査についても文部科学省及び各教育委員会や各学校が児童生徒の学力や学習状況を把握し、学習指導や生活指導の改善等に役立てることを目的として実施されています。

本調査について分析結果をまとめました。本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であることや、学校における教育活動の一側面に過ぎないことなどを踏まえつつ、保護者・地域の皆様の理解と協力のもとに適切に連携を図りながら一層の指導上の工夫改善に努めます。学校の教育活動に対して支援していただければありがたいと思います。

1 全国学力・学習状況調査の結果について

〈学習指導要領の内容の平均正答率の状況〉

6年国語科

「言葉の特徴や使い方」の項目における結果は、比較的良好です。このことより、既習漢字がしっかりと定着していることが分かります。今後も、モジュール学習や家庭学習等において漢字学習を継続して行っていきます。一方、「書くこと」の項目において、文章全体の構成、展開を考えることや、目的や意図に応じて理由を明確にしながら、自分の考えが伝わるように書き表すことを多くの児童が苦手としています。文章の書き方について再度確認することや、自分の考えを文章に書き表す課題にも取り組んでいきます。

※数値公表については小規模学級のため、統計的な精度、個人情報保護の観点から非公表とします。

6年算数科

「データの活用」の結果から、棒グラフから数量を読み取ったり、データを表に分類整理したりする問題はよく理解できていることが分かります。「変化と関係」の項目について課題があると考えられます。基本的な計算は理解できていますが、文章題の中から必要な数値を選んで立式したり、小数倍の理由を記述で答えたりと応用力が求められている問題については課題があります。今後も対話活動を主とする授業の中で、理由を説明する力を養っていきます。また、図形問題については、昨年度からの取り組みにより改善が見られましたが、授業や家庭学習の中で計画的に復習をし、さらなる定着を目指します。

※数値公表については小規模学級のため、統計的な精度、個人情報保護の観点から非公表とします。

て

※数値公表については小規模学級のため、統計的な精度、個人情報保護の観点から非公表とします。

どの観点においても良好な結果が出ており、十分に生活習慣・学習習慣が身についているようです。特に「学級の規範意識」「学級の絆」の数値が高く、集団でのルールを守り、12名が仲間であるという意識が高い様子でした。様々な質問で自己肯定感の高さがうかがえました。一方で、「対人ストレス」「生活習慣」が課題です。周りの友だちにどう思われているかを気にする傾向が強いです。また、自分で朝起きることが苦手な児童が多く、平均的なゲームの時間は長い傾向にありました。中学校では部活動や学習時間の延長などで、今以上に自分が使える時間が短くなることを見据え、保健の授業などで生活を見直す機会をとっていきます。

同じく5月に行った全国学力・学習状況調査では、大山小の6年生は全国の児童と比べて、夢や目標を持ち、粘り強く最後まで取り組もうとしている児童が多いことがわかりました。また、「自分にはよいところがありますか。」という質問に対して100%の児童が肯定的な回答をしていました。他にも大山で研究している対話的な授業づくりとけテぶれの成果として、「友だちと話し合う活動から考えを広げたり深めたりできたか」「普段や昨年度の休校期間中、計画的に学習ができたか」の項目では、全国よりも10ポイント以上高かったです。

一方で、自分で考えをまとめたり、新しいものを生みだしたりすることは苦手な児童が多い様子でした。他にもテレビゲームの時間が比較的長く、読書の機会が非常に少なかったです。今後学校でも国語科の活動の中で、関連する本を読んだり紹介し合ったりする活動を取り入れていきます。

3 学校全体での今後の取組

国語科においては、市調査、全国調査の結果から、無解答による数値の落ち込みが一部あったものの、ほとんどの項目において良好な結果となっていることがわかりました。子どもたちがあきらめずに最後まで問題に取り組もうとする意欲が向上するように努め、現在実施しているきめ細かい指導を続けていきます。

算数科においては、市調査、全国調査の結果から、文章から正しく立式できなかつたり、式を見てどのように考えて立式したのかを説明できなかつたりする児童が多いことが明らかになりました。文章問題を読んで題意を把握できるよう、月に1度、長文問題を解く時間を全校的に設け、文章問題に慣れていけるようにしていきます。また、昨年度より取り組んでいる対話を大切に学習を通して、自分の考えを相手に分かりやすく伝えたり、友だちの考え方をよく聞いて自分の考えと比較して考えたりする力をしっかりとつけていけるようにしていきます。

「生活習慣」、「学習習慣」においては、市調査の結果から、ほとんどの項目で良好な結果でした。学習習慣や生活習慣が十分に身についているといえます。児童たちの自分の学級への思いや人間関係も良好です。少し気になるのが他の項目に比べ、「充実感と向上心」が低くなっていることです。対話を意識した学習形態やけテぶれ学習の取り組みも含め、様々な場面で児童自身に自信がもてるような関りを日々実践しております。今後もそのような学級・学校づくりに努めます。ご家庭におきましても日々の学習等で子どもたちの励みとなる言葉かけを引き続きお願いいたします。